

踏 み 跡 < My mountains >

ハケ岳	主稜縦走(黒百合平から小淵沢へ)	No.069
-----	------------------	--------

この山行ではふたつの実験をしてみることにした。
 「ハケ岳南部の核心部を一日で走破できるか？」と
 「夏の 2500m で軽装備でビバークができるか?」。
 6月の巻機山以来の単独行。

昭和41年8月27日

中央線沿線の山には大分ご無沙汰してしまった。
 半年振りぐらいになるだろうか。

朝は高尾発9時20分という遅い電車。この電車は休日でもすいているし、甲府で30分の待ち合わせで松本行に乗り換えられるので大変便利だ。

今にも泣き出しそうな空だったが、甲府盆地に入るとかかん照り。甲府でアンパンと牛乳の簡単な昼食(80円)。甲府発松本行は12時02分発。

盆地の西端に近付くにつれて、青空が広がり、懐かしき鳳凰三山と甲斐駒が暑い車窓に近寄って来たが、ハケ岳は車窓からは遠くしかも雲の中。

茅野到着は14時05分だったか。

夏とはいえこの時間になると登山客はほとんどいない。14時35分発のバスで一時間余り悪路を揺られて、硫黄の臭いが漂う渋の湯に着いたのは15時50分。(バスは150円)西の空はもう赤くなり始めている。ここはもう海拔1880mの高さだ。15時55分

行動開始。日没との競争になるかもしれないので、少々焦りと緊張がある。

川を渡って樹林に入り、わずかな傾斜の登り。所々の倒木やゴーフを越えて歩くこと一時間ほどで森林限界を越え、草原のようなところに飛び出した。

黒百合平17時05分、標高2440m。渋の湯が1880mなので560m登ってきたことになる。幸いにも水があるのでこの場所でビバークでも…と思ったら、天幕代を50円要求されたので取りやめ。

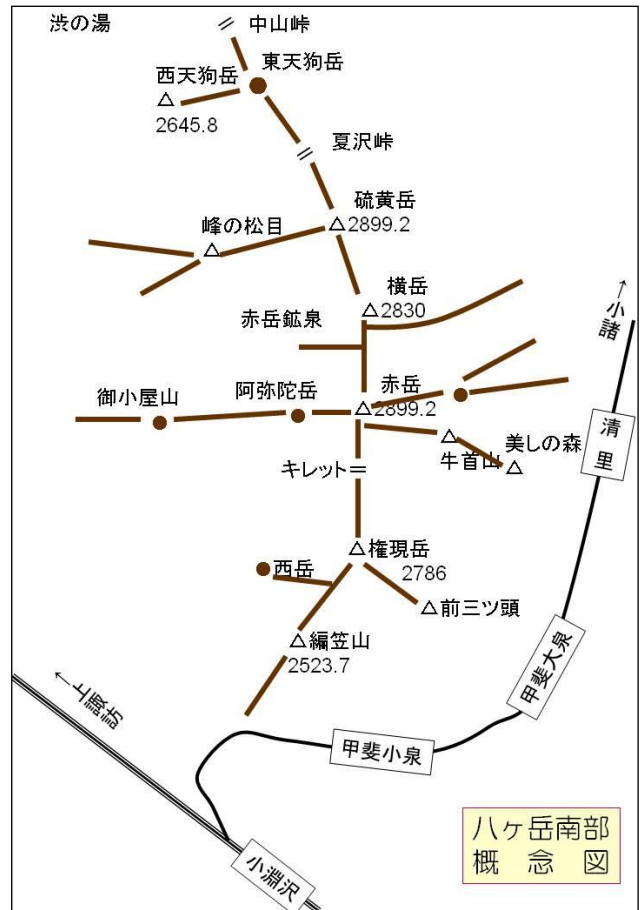
水を汲んで更に登り、スリバチ池のほとりのハイマツの中の砂地に着地。17時45分もう誰も通らない。

夕暮れの天狗岳をスケッチした後夕食。(下写真)夕食はぶどうパン・バター・チーズ・キュウリ、マヨネーズ。



風が出てきた、8月だというのに思いのほか寒い。寝床の準備に入る。グランドシートを敷きエアマット、その上に上半身は登山シャツにセーターとヤッケ、下半身はズボンの上にオーバースボン。それにポンチョをかぶるだけ。脚をザックに突っ込んでいると段々温かくなってきた。18時40分就寝、と言ってもこういう形でテントも張らずに野宿するのを就寝と言えるのかどうか?まだ明るい目が目を瞑る。今から眠りに入り、もっとも寒い2時頃まで熟睡できれば7時間寝られる。と言う計算。

22時30分、一回目の目覚め。くの字型になって寝ているので腰が痛くなり、体の向きを変える。月がこうこうと照り星も満天、寒くなってきた。



踏み跡 < My mountains >

昭和41年8月28日

二回目の目覚めは0時30分、月も消えて笹を日にかざしたような無数の星。足が寒い。

三回目の目覚めは2時30分、空に向いている半身が寒い。また体の向きを変える。ザックに夜露が下りて足が冷たくなってきた。四回目は3時30分、まだ星が一杯見える。風が出てきた。もう一眠りか。

4時10分起床。寒さに奥歯をガタガタ鳴らしながら、持ってきた朝日ジャーナルを全部燃やして暖をとって、
昨夜と同じメニューの朝食。

4時50分出発。日の出は東天狗岳に登る途中で奥秩父方面から。砂礫のジグザグの登りが続き、東天狗岳(2640m)5時20分到着。夜が明けたばかりの空の下、一本の線を引いたように白馬から前穂までずらりと北アルプス、ちょっと離れて乗鞍と木曾駒、中央アルプスは木曾駒を先頭に宝剣、空木、越百の南まで。その先に入笠山を先頭に鋸、甲斐駒、仙丈、北岳、鳳凰と南アルプスが続く。富士は目の前に黒く立ちはだかる赤岳と横岳の影で見えない。奥秩父に目をやると、金峰山の五丈岩が手に取るように。浅間山、妙高、戸隠…。何でも見えるし周りに誰もいない。この景色がすべて自分のものだと思うと口元がほころんでくる。2645.8mの西天狗岳を往復して5時50分出発。夏沢峠(2392m)6時25分、登山シャツとニッカーを脱いで、短パンとポロシャツに衣替えて6時30分出発。これからハケ岳の主要部に入ることになる。

硫黄岳(2742.1m)7時、横岳西壁と赤岳、阿弥陀岳などハケ岳核心部はもう目の前。10人ほどの登山者がいるが、さすがに一日で縦走しようとしている人はいないようだ。一枚スケッチして、さらに駒を進める。



横岳主峰(2830m)7時45分。雲海から顔を出し、剣が峰まで鮮やかに見える富士山も視界に加わり、フルメンバーがそろった。キューリが旨い。

赤岳石室8時30分、腹が減ったが赤岳頂上まではガマン。氷砂糖をなめてすぐに登りに入る。ボリュームのある登りだ。

赤岳(2899.2m)9時、ハケ岳の主峰に到着。眺めはさして変わらないが、ここからは阿弥陀と権現が息を呑むよう

な素晴らしさで、さらに遠くに上越の山までが見えてきた。行者小屋の屋根が見える。西へ、中岳・阿弥陀岳と続く尾根が、東へ県界尾根と真教寺尾根が。県界尾根のかなたに小海線に沿った高原地帯が広がっているのも見える。最後になってから水が足りなくなるのを避けるため売店でジュースを買って飲む。(90円)小屋にアルバイトに来ている女の子たちと意気投合して、しばし雑談。じっとしていると風が冷たい。景色をおかずにぶどうパンをかじる。ここから小淵沢まで七時間～八時間と見て、10時に出発すれば暗くなる前に駅に着けるだろう。

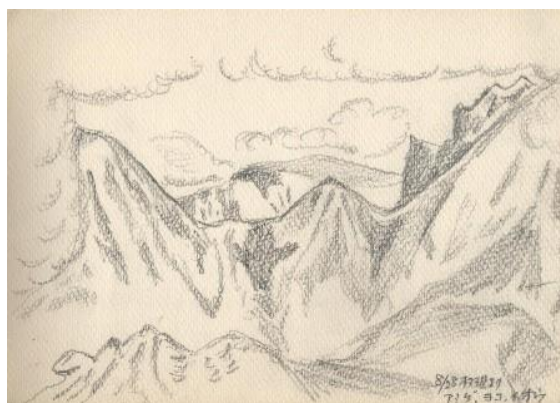
9時40分出発、今回のコース中の難関であるキレットへの下りに入る。左に落ちる地獄谷を見下ろしながら、岩場に岩礫が乗った落石しやすい急な下りが続く。

標高差約300mの下りを40分ほどでクリアし、キレット(2600m)10:20。予想していなかった水場がある。ジュースを買って損した。水を満タンにして10時35分権現への登りに入る。

権現岳(2786m)11時35分、見下ろせばはるか眼下のキレット。赤岳からの急峻な下りと権現への登りはさすがにきつかった。北アルプスは段々に薄く霞み始め、目の前の阿弥陀岳も南稜にガスがかかり始めてきた。

赤岳方面の眺めが絵のようなので、キューリの残りにマヨネーズを付けて食いながらスケッチ。(右写真)

阿弥陀と赤岳の間に平坦な硫黄岳と黒くたくましい横岳



踏み跡 < My mountains >

西壁が印象的。はるか南に青年小屋の屋根とドームのような編笠山、その向こうに北岳・仙丈、甲斐駒。

12時15分権現岳を出発、30分の下りで青年小屋着は12時40分。小沢から小屋を掃除に来た人たちとお茶を飲みながら雑談。見上げる編笠山への登りはふた抱えもありそうな大岩がごろごろした、見るからに歩きにくそうなところ。

最後のピーク編笠山(2523.7m)13時30分。ハイマツの中に岩がごろついた平坦な頂上。南アルプスが



手に取るような近さになったが、雲に入り始めてしまった。眼下に小沢の町と、町につながる長い一直線の道が見える。氷砂糖をしゃぶりながら赤岳と権現岳をスケッチ(左写真)して、13時45分出発。いよいよ最後の下りに入る。標高2000m地点を少し下ると、伐採で見晴らしの良くなった笹原。14時20分、景色を楽しむのには絶好の場所なので木の切り株に腰を下ろして氷砂糖をなめながら目の前の甲斐駒、鳳凰、北岳の屏風絵のような広がりを楽しむ。一息ついて

いと、登ってきた(地元の人と思われる)親子三人連れが近づいてきて、「余ったから食べませんか?」と言って、拳骨ほどの大きさの新鮮なトマトを三個持ってきた。空腹の絶頂にこんな有難いものはない、断る理由などあるはずがない。息もつかずに一気に三個平らげ、しばらく横になって甲斐駒の眺めを楽しんだ後14時50分に出発。

やがて編笠山から見えた長い一本道を歩くようになり、時折振り返ると編笠と権現がどんどん遠ざかり、代わりに甲斐駒がどんどん覆いかぶさるようになって来る。小海線の踏切を渡り小沢の町に入ってくると、安心感からか足が重くなってきた。トマトの満腹感も失せる頃、16時30分に終着点の小沢駅に到着。ついにやった!!じわじわとこみ上げてくる実感に、まるで酔っ払っているような気分。次の列車まで50分あるので、汗を拭き乾いたシャツに着替えて駅前でラーメンを食べた。食べ終わって立ち上がったらとたんに疲れを感じ始めた。よく歩いたものだ。今日は、スリバチ池のビバーク地点を出てから行動時間は11時間40分、内休憩時間は3時間15分、歩いた時間は8時間25分になる。

小沢発17時32分の各駅停車高尾行に乗る事が出来たので、今日中に帰宅できた。

この山行では様々な実験的試みをした。「2500mの高さでのビバーク」、「軽食のみによる荷物の軽量化」と、「カメラは重いので持たずスケッチブックで」、「これらを武器としたラッシュアタック」、などなど今までやったことのないことを試してみる、「試験的」「冒険的」山行でもあった。今後の自分の登山技術として有益な成果を感じる旅だった。

結果から振り返って見ると、渋の湯・黒百合平から小沢への縦走は、うまく歩けば夜行日帰りか両夜行でできそうだ。ハケ岳は混雑するのでこんな歩き方が適しているのかもしれない。

以上

(修正・更新:2023年11月)